

## ロイコトゾーン症予防に関する試験

宮園歴造・真鳥 清・\*池尾辰馬・\*竹下正興

(長崎畜試養鶏分場・\*中央家保検査課)

ロイコトゾーン症（ロ症）を予防するため、ニワトリヌカカの発生状況を知るとともに、ニワトリヌカカの防除方法として殺虫剤の鶏体散布の効果等について試験したので報告する。

## I. 殺虫剤の散布効果比較試験

## 1. 試験方法

供試鶏は昭和52年4月8日えつけの卵用種を用い、昭和52年6月1日より10月31日まで試験し区分は次表のとおりとした。なお、殺虫剤の散布は16時～16時30分に鶏体および側壁に手押ポンプにて散布した。

区分・方法

区分	羽数	殺虫剤名	散布回数	稀釈倍数	1羽当り散布量
1	80	有機燐剤	週 1 回	3 0 0	4 0 ml
2	80	カーバメイト系	〃	5 0 0	〃
3	79	〃	〃	〃	〃
4	80	対 照	—	—	—
5	80	有機燐剤	週 1 回	5 0 0	4 0 ml

## 2. 試験成績

(1) ニワトリヌカカは6月上旬～7月上旬に大発生後8月下旬～9月上旬および9月下旬～10月下旬にかけ発生がみられた。(2) 各区共、殺虫剤散布前後の15回についてニワトリヌカカの採集を行った結果、散布直後では各区共、♀数および吸血数が少なく、また吸血率の低下がみられたが散布前では1区と3区の数が少なくなり、吸血率は3区が最も低かった。(3) 1区と4区について血液調査を行った結果、原虫は4区が1区より8日早く出現した。(4) ロ症によるへい死、とう汰鶏は4区4羽1区2羽であった。(5) 各区の緑便排泄鶏は高率に現れたが、なかでは3区がやや少なかった。

## II. 捕虫ランプの効果

## 1. 調査方法

捕虫ランプ3機種（A…BLB管、B…BL管、C…

BLサークライン屋外用）を用いニワトリヌカカの採集数比較を行った。

## 2. 調査成績

6月より7月にかけて調査した結果、採集数は採集日より差はみられたものの、Cが最も多く総数の58.1%を占め、A、25.4%、B、16.5%の順であった。

## III. 黄色ランプの効果調査

## 1. 調査方法

平飼鶏舎でBLB管捕虫機と黄色ランプとの捕虫数の比較を行った。（黄色ランプは横にBLB管の捕虫機をとりつけニワトリヌカカを採集した）。

## 2. 調査成績

6月より8月までの間にニワトリヌカカの採集を行った結果、黄色ランプが約47,600匹、BLB管、9,200匹であり、黄色ランプでの採集数が多かった。

## 要 約

以上の結果より、ケージ鶏舎における殺虫剤週1回散布では各区とも、緑便排泄数が多く、ロ症の感染および発症を防止することはできなかったが散布区がロ症によるへい死、とう汰鶏が多かったことや、末梢血中の原虫出現が散布区が若干遅れたこと等から殺虫剤を散布することによりロ症の感染および発症の程度を軽減させる効果があったものと考えられるが殺虫剤の種類により、ニワトリヌカカの採集数や吸血率に差が認められたことから殺虫剤を選択する必要があると思われる。ロ症の感染、および発症をより以上に減少させるためには、ニワトリヌカカの多発時期に週1回以上の殺虫剤散布が必要と思われる。なお、ニワトリヌカカに効果があると云われている黄色ランプの忌避効果は今回の調査では認められず、また捕虫機の効果ではサークラインでの捕虫数が多くなったが本機は屋外用のものであるためさらに検討する必要がある。